



気管支炎きかんしえんのとき、「たん」はどのように気管きかんに入るのはい

「たん」は、気管きかんや気管支きかんしでつくられる

「たん」は、気管きかんや気管支きかんしのかべから出る「ねん液えき」が、空気中くうきちゅうのごみをくっつけて、取り除いたときのごみのかたまりです。ですから、気管支炎きかんしえんのときの「たん」は、気管きかんに入るのではなく、気管きかんや気管支きかんしでつくられて、口くちへ出てくるのです。

気管支炎きかんしえんのときの「たん」は

気管支炎きかんしえんになるのは、たいていの場合ばあい、かぜが原因げんいんです。かぜのウイルスや細菌さいきんが、気管支きかんしに入り、炎症えんしょう（熱を出したりはれたりすること）を起こすと、体からだがそれをなおすためのたらきを始め、白血球はくけつきゅうなども、かぜのウイルスや細菌さいきんを、殺すために集まってきます。気管きかんや気管支きかんしのかべには、ねばねばした「ねん液えき」を出す細胞さいぼうが無数むすうにあり、入りこんできたかぜのウイルスや細菌さいきんを、「ねん液えき」にくっつけて取り除こうとします。

また、白血球はくけつきゅうなども、かぜのウイルスや細菌さいきんを、殺すために戦たたかいます。そして、戦たたかって死んだ白血球はくけつきゅうと、ウイルスや細菌さいきんの死がいしが「うみ（のう）」になり、「ねん液えき」といっしょになります。つまり、気管きかんや気管支きかんしのかべから出る「ねん液えき」が、空気中くうきちゅうのごみや、白血球はくけつきゅうやウイルスや細菌さいきんの死がいしを、くっつけたものが、気管支炎きかんしえんのときの「たん」というわけで、気管支きかんしのかべにある「せん毛もう」のはたらきで、のどの方ほうへ送り返かえされます。

「たん」が小さくて、のどのかべをしげきすると、せきが出て「たん」を出だします。

（監修・保志 宏）

